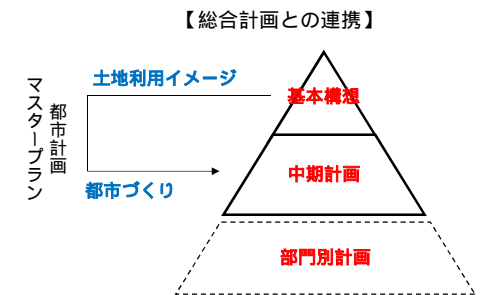


これまでの検討の内容について

前提					
人口減少社会における都市計画マスタープラン					
検討部会における主なご意見					
人口減少局面	地勢を踏まえた防災	都市の魅力の再発見 宇治ブランドの向上	産業・商業の変化	市民参加	総合計画と連携
市民ニーズ・生活スタイルの変化による拠点の役割・連携の変化 地域特性を踏まえた拠点を結ぶ多極ネットワークによるまち 生活利便性の維持向上を目指す都市構造 若い世代（生産年齢人口）の流出抑制など、持続的な発展を目指す（多様な働く場など） 公共交通に対する社会ニーズの変化に対応した持続可能な交通体系	中長期的な視点及び短期的視点での土地利用 一方で災害リスクを認識した上で防災・減災対策を併用したまちづくり 災害リスクへの対応の継続（ハード・ソフト）	愛着から定住促進に繋がられるよう、自然環境・歴史的資産・生活利便性など他都市との差別化・ブランド化及び再発見（発信） 差別化・ブランド化による、新しい人（交流人口）の流れの定着 住みたくなるまちとするため、宇治市の魅力の価値を高める 都市基盤整備（継続）によるにぎわいと交流	中心的役割を担う拠点から商業施設が撤退するなど生活スタイルの変化を踏まえた役割 人口増を目的とした拡大ではなく持続的な発展に向けた産業・商業のあり方	市民参加型でつくられたその精神は引き継ぎ 活かせ 楽観的、悲観的な将来シミュレーションの見 え化による市民との情報共有 地域間での違いがどういふところに出てくる か、その地域特性を踏まえて市民参加 施策の実施状況や新たな課題など、地域毎 の特性を踏まえた市民参加	総合計画でのマスタープランの役割の明確化 総合計画に対し都市づくりの面から具体化

新しい計画

これからの都市計画の視点
<ul style="list-style-type: none"> 成長型社会から成熟型社会へ、拡大から質の向上を目指す パートナーシップ（市民・事業者・行政）による都市づくり



都市づくりの基本目標			
宇治らしさを活かした選ばれる都市づくり	多様な住まい方・働き方を支える都市づくり	総合的な災害リスクに対応できる都市づくり	地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり
【基本方針】 快適に暮らせる市街地を形成し、豊かな自然を保全し、身近なみどりを守ります（ 1 ） 歴史・文化が調和した良好なまちの景観づくりに努めます（ 2 ） 文化・歴史や茶業などの資源を活用した都市づくりをめざします（ 2 ）	【基本方針】 生活利便性の維持向上による質の高い都市づくりをめざします 持続的な発展が可能な都市づくりをめざします（ 1 ） 人にやさしく快適な住環境・都市施設を整備します（ 3 ） 新たな産業の育成による個性ある都市づくりをめざします（ 2 ）	【基本方針】 安全・安心して住み続けられる都市づくりをめざします（ 3 ） リスク対応型の都市づくりをめざします	【基本方針】 各地域が連携・補完し、まちの資源を共有できる都市づくりをめざします 人にやさしく、環境にやさしい交通体系を実現します（ 4 ） 歩くことが楽しくなる都市づくりをめざします（ 4 ）

赤字は新規追加項目

青字は既存の項目を2つに分割

緑字は表現の修正

【主な施策】 ・景観計画（H20～） ・歴史的風致維持向上計画（H25～） ・観光振興計画（H25～） など	【主な施策】 ・総合計画（策定中） ・まち・ひと・しごと創生総合戦略（R2～R6） ・産業戦略（H31～） ・天ヶ瀬ダムを観光資源とした体験型の周遊観光の推進（R2～） など	【主な施策】 ・地域防災計画（地区防災計画含む） ・ハザードマップ（洪水浸水、土砂災害、地震） ・公共下水道（洛南処理区）雨水排除計画（H25～） ・公共施設等総合管理計画（H29～） など	【主な施策】 ・公共交通体系基本計画（策定中） ・近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本構想（策定中） など
--	--	--	--

現計画

2 - 4 都市づくりの基本姿勢
5 市民と行政が対話し、ともに育む都市づくり ・市民と行政の協働 ・既存制度の活用と市民の声が反映される新しい制度の積極的な創設 ・財政動向や社会動向を見据えた計画的・段階的な施策の推進 ・将来の都市づくりを実現するための庁内体制の整備

2 - 5 都市づくりの基本目標			
1 豊かな自然環境をいつまでも大切に未来に伝える都市づくり	2 歴史と新しい文化が息づく都市づくり	3 災害に強く安心して住める穏やかな都市づくり	4 人や環境にやさしく交流を大切にする都市づくり
【基本方針】 無秩序な市街地の拡大を防止し、豊かな自然を保全し、身近なみどりを守ります 循環型社会に対応した都市づくりをめざします	【基本方針】 新旧の文化が調和したまちの景観をつくり ます 文化・歴史や茶業など、資源の活用と新たな産業の育成による個性ある都市づくりをめざします	【基本方針】 すべての人にやさしく快適な住環境・都市施設を整備します 安全・安心して住み続けられる都市づくりをめざします	【基本方針】 人にやさしく、環境にやさしい交通体系を実現します 歩くことが楽しくなる歩道のある都市づくりをめざします

【資料1】検討部会での検討状況について

委員		事前打合せ時の主な意見	資料の修正内容	資料項目	資料2 ページ	
1	多々納部会長	資料の構成について	「これからの都市計画の視点」と「基本目標」の内容が重複しているので整理を	各委員にご意見を伺い、事務局として整理	【資料1】 都市づくりの基本目標	
2	多々納部会長		4つの基本目標の順序は、今回策定の趣旨と照らし合わせ、「宇治らしさ」を一番前に出した方が良いのでは？ 「宇治らしさ～」、「多様な住まい方～」、「災害リスク～」、「多極ネットワーク～」の順が良いのでは？「宇治らしさ～」の一番先頭にパートナーシップがあると良いのでは？			「宇治らしさ～」、「多様な住まい方～」、「災害リスク～」、「多極ネットワーク～」の順に変更
3	多々納部会長		基本方針の各項目については、できるだけ伝わりやすい表現に整理した方が良い			
4	森委員	パートナーシップの都市づくりについて	「宇治らしさ～」の「パートナーシップを活かした都市づくり」ではなく「パートナーシップによる都市づくり」の方が市民協働などの記載内容に対して適切な表現では	【資料1】 これからの都市計画の視点 【資料2】 3-2「これからの都市計画の視点」の前に項目を追加	p26	
5	野田委員		「パートナーシップの都市づくり」は、基本目標の1つではなくもっと上位の概念では。人口減少下、都市の質を上げるには、住民自らが決めていく必要がある。そのやりかたのスタンダードを決めるのがマスタープラン。「パートナーシップの都市づくり」は手法の話なので目標とは違う。			
6	山本委員		「パートナーシップの都市づくり」は、4つの基本目標と関わり方の濃淡がある。基本方針の1つとしてしまうと、部門別方針で消えてしまわないか。			
7	後藤委員		「成長型から成熟型への転換」において「パートナーシップの都市づくり」が必須であるなら、上位に説明を入れればよい。今後のマスタープラン全体の構成の中で適切なところに整理すれば良い			
8	多々納部会長	【基本目標】 宇治らしさ	基本目標「宇治らしさ」基本方針「無秩序な市街地の」や「新旧文化が調和したまちの景観」に関して、もう少し良い表現がないか。	成長型社会から成熟型社会へ、拡大から質の向上を目指すといった時代に合う表現に修正 「無秩序な市街地の拡大を防止し」から「快適に暮らせる市街地を形成し」 「新旧の文化が調和したまちの景観をつくります」から「歴史・文化が調和した良好なまちの景観づくりに努めます」	p28	
9	森委員		「宇治らしさ～」の「無秩序な市街地の拡大」という表現は古いのでは			
10	多々納部会長	【基本目標】 災害リスク	「災害リスクを踏まえた都市づくり」に関しては、「踏まえた」ではなく「対応できる」という表現の方が適切と考えるが、岡田委員のご意見を伺うなど各委員の専門分野についてご意見を伺う事	【資料1】 都市づくりの基本目標 【資料2】 3-3「都市づくりの基本目標」	p30	
11	岡田委員		「災害リスクを踏まえた～」に関しては、浸水等の災害だけではなく、環境リスク、気候変動等も包含した「総合的な災害リスク」もしくは「減災型の都市づくり」といった表現を用いて整理した方が良い			
12	岡田委員		「災害リスク～」の基本方針の中には、リスクと共存するといった内容も記載を			
13	野田委員		基本目標の中でも「災害リスクを踏まえた」は市民の希望と離れていたとしても行政がやっていくことなので、「災害リスク回避のための規制強化」というのをどこかに入れても良いかもしれない			
14	森委員	【基本目標】 多極ネットワーク	「多極ネットワーク」の「歩くことが楽しくなる歩道のある都市づくり」は歩道整備をイメージされるのでは。表現が少し古いのでは。	地域と地域がそれぞれの役割を明確にした上で、ネットワークでつながり、相互に補完し合う都市を目指すため「地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり」と修正	p31	
15	小出委員		「多極ネットワーク」という表現は分かりにくいのでは			

【資料2】全体構想(原案)について

委員	事前打合せ時の主な意見	資料の修正内容	資料項目	資料2ページ
1 後藤委員	資料1の「前提」と「主なご意見」については、現況のデータを見ながら出された意見と考えるので「現状と課題のまとめ」もしくは「これからの都市計画を考えるにあたって」のような項目を設け整理した方が良いのでは。	現状と課題のまとめを「2-11まとめ」として整理	2-11まとめ	p25
2 多々納部会長	宇治市の現状と課題のデータが少し古いのでデータがあれば更新を。図表の表題等見やすく配置を。メリハリをつけて読みやすい体裁に。	今後最新のデータを手に入ってきた段階で更新します		
3 多々納部会長	地図に関しては宇治市の個性、良さが現れたものにした方が良い。(公園の図の場合、大きい公園や、みどりの配置など宇治市の良いところをハイライト)	「公園・緑地位置図」を修正	2-6公園・緑地	p22
4 森委員	地図に関して、うるおいのある生活圏や自然と一体となったまちなどが伝わる内容になると良い			
5 小出委員	宇治市の魅力となる史跡や景観が伝わる内容になると良い	「景観資源図」を追加	2-9都市景観	p24
6 多々納部会長	産業の図表について、製造業でまとめているが、食品や機械などどういう分類なのか、内訳を教えてください。(1)農業は、宇治茶など宇治の個性が分かるものを整理、(2)工業は、全産業のグラフになっているので整理、(3)商業の従業者数は減少したが、売上げがのびている理由を記載	産業全体を追加し、各図表を修正	2-3都市構造産業	p15
7 森委員	製造業のイメージが昔とは異なっているのでは。工業用地の確保とイメージが合う整理が必要では			
8 多々納部会長	都市防災の図について、レッドゾーン、イエローゾーンはすべて入っているのか。浸水想定区域は想定最大規模なのか前提の記載を	「都市防災関連現況図」を修正	2-8都市防災	p23
9 多々納部会長	「市民参画」の記載は、「パートナーシップ」に関する部分とまとめて記載した方が良い	「3-2これからの都市計画の視点」として、「3-3都市づくりの基本目標」の前に項目を追加	3-2これからの都市計画の視点	p26
10 多々納部会長	目標年次の「進捗管理と見直し」の表現は前向きな表現にした方が良い			
11 後藤委員	3-1背景と目的、3-2目標年次については、「1.はじめに」で説明した方が伝わりやすいのでは	「1.はじめに」の「1-6マスタープラン策定の背景と目的」と「1-7目標年次(進捗管理と見直し)」を整理	1-6マスタープラン策定の背景と目的 1-7目標年次	p7
12 多々納部会長	3-3都市づくりの基本理念について、「人口減少社会における都市計画を踏まえ」ではなく「人口減少社会における都市計画の諸課題に対応することを念頭に」の方が伝わりやすい	「人口減少社会における都市計画の諸課題に対応することを念頭に」に修正	3-1都市づくりの基本理念	p26
13 多々納部会長	3-4基本目標「多極ネットワークの都市づくり」人口が減少すると都市機能の維持が難しくなる、そのため各拠点が補完し合いながらネットワークを形成する必要がある」といった内容を記載した方が良い	地域と地域がそれぞれの役割を明確にした上で、ネットワークでつながり、相互に補完し合う都市を目指すため「地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり」と修正	3-3都市づくりの基本目標	p31
14 森委員	3-4基本目標「多極ネットワークの都市づくり」に関して、交通体系だけの内容になっているが、ミクロの歩ける範囲の充実という要素を加えてはどうか。(広域拠点と地域拠点の連携というよりは日常生活圏のつながりといった内容)			
15 多々納部会長	3-4基本目標「災害リスクを踏まえた」の「災害リスクを認識した上で」については、市が積極的な災害リスクを開示し、説明して市民に認識してもらおう。各個人も安心・安全な住まい方を選択できるようにするといった内容を記載した方が良いのでは。都市機能誘導や居住誘導といった立地適正化の考えも記載するか整理が必要では。	災害リスクを認識した上でのまちづくりについて、「リスク対応型の都市づくりをめざします」に記載		p30
16 多々納部会長	「パートナーシップのまちづくり」については、全体をカバーするものとして整理した方が良いのでは。また、部門別方針に「パートナーシップによるまちづくり」を追加してはどうか。	部門別方針の1項目として追加	4.部門別方針	p44
17 岡田委員	将来的な都市の骨格の「持続的に発展するまちをめざす新たな取組」についてはもう少し限定的な「活力ある」という表現もあるのでは。	「活力ある都市を目指す新たな取組」として整理	3-4将来都市構造の基本的な考え方	p39
18 後藤委員	3-5将来的な都市構造の基本的な考え方は、各説明の後に図を整理すると分かりやすい。	各説明の後に図を配置		p32
19 山本委員	生活レベルでの利便性のような項目が、部門別方針の1項目として入ってくるのでは。「都市環境」の中にエコロジカルな項目だけではなく、生活利便性の維持も入っても良いのでは。「都市環境」ではなく「生活環境」としても良いのでは	今回の部会でご議論頂きたい		
20 後藤委員	部門別方針の各項目を整理する段階で、市の施策をどれだけ盛り込むか。その中で足りない項目があれば追加すればよいのでは。			

【資料3】市民参画の手法について

	委員	事前打合せ時の主な意見	資料の修正内容	資料項目	資料2 ページ
1	多々納部会長	今住んでいる人へのアンケート項目になっているので、「自分の子供を将来宇治市に住ませたいか」や「そのためには何が必要か」といったことも聞いてはどうか	今回の部会でご議論頂きたい		
2	岡田委員	今回策定の過程で都市診断について検証した事について積極的に触れてもいいのではないか。その上で、地域別に都市診断をどうしていくか。日本標準型では点検できないような項目も市民の方に意見を出してもらって点検していくといったことも「パートナーシップ」の中に加えるというのも良いと思う。地域の人々が地域にいるから分かる事と、統計等のデータに基づいたデータを揃えながら市民参画を行うというようなことも一つの手法として、建設的な参加が生まれるのではと考える。市の都市診断、地区診断をしていけば宇治方式として大きな成果になると考える。それを情報基盤として整えていけば、総合計画の検証と合わせて検証する上で、戦略的なツールになるし、市民だけではなく様々な人々の選択に役立つものになる。			
3	野田委員	市民意見交換について、まずは将来予測を示し、認識を持ってもらうところではないか。高齢化が進んでいる地域について、法的には相続登記など土地の所有権を整理することが大事だと認識してもらおうことが考えられる。			
4	小出委員	市民の方のワークショップに参加したいかなどの意向はどのくらいあるのか、どうすれば参加してもらえるのかを確認する場はあるか			
5	森委員	WSについて、従来のように会議室やコミセンなどに集まってもらう方法とオンラインを合わせて行うことも設備があれば可能なのでは。そうすれば、様々な人が参加できる。(オンラインと会議室でのパブリックビューイングの併用)オンラインなら、忙しい人も後日YouTubeで配信してコメントをもらうこともできる。			

全体スケジュール（案）

都市計画審議会

宇治市

